

# 世界人形行脚記(六)

—世界教育大會より歸りて—

フレールベル館社長 高 市 次 郎

## ▽巴里からジュネーブへ△

汽車は九月の五日午前十一時、巴里を後に、瑞西のジュネーブへと志す私たちを乗せて、ブルゴーニュのあたりを驀地に走つてゐます。圓い柔かな輪廓の丘陵が重り連續

して遙に車窓を訪れる。南方佛蘭西の獨特の色あざやかな緑の芝地が、高原地帯に入るこのあたりを緩かに蜿蜒ながら遠く展けて、餘念なく群れ遊ぶ放牧の羊や牛が列車の窓に送り迎へられる。森林のかなたには某の寺院の尖塔が隠見し、赤い家根や青い家根の住宅が緑の林を點綴してみせて、恰も自然の一大公園であり、印象派の田園畫家によつてものされたりアリスチックな一大畫圖であります。

ローヌ河の上流を渡つてからはジュラ山脈、アルプスの

山系がゆく手に展開して、漸く肌さむさを感じてくる。

ジュネーブについたのは午後七時半、時は九月のはじめとは云へ、そゞろに十月なかば過ぎを想はせる冷氣であります。

いままで、人形行脚の歐洲に於ける旅の徒然を慰められた到る所の山々——それこそ、蒲團を着て寝たやうな輪廓の柔かい圓い丘陵は、瑞西に來て全くその山容を一變して巍峩として迫るが如く、千古の白雲に碧空を劃り、又の如く天を摩して、屹立して我が日本のその如く嵯峨たる山容が雄偉壯嚴な趣をみせてゐます。なかにもユングフラウの麗容、突兀として屹立する標高四千八百メートルといふアルプスの盟主モンブランの勇姿は、鏡の如きレマン湖と

湖畔をめぐつて竝ぶ白亜の建築、濃かな緑樹と互に相照映して、國際都市ジュネーブを美しく飾つて觀せてゐます。

國際聯盟事務局は湖畔にのぞみ波靜かな湖上にその影をうつしてゐる。併し、二千萬圓の巨費を以て、新に、總會議事堂理事會議室、圖書館、事務局等の一大殿堂を湖畔の小丘上に建築中でありました。

私たちは湖畔の美しいホテルに五日から六日に亘つて寛いだのです。

顧ふに、米國からのみちすがら、さすがに風光明媚を謳はれてゐるゼネヴ湖畔だけに、一番美しかつた所ではあります、その幽邃にして明媚な麗はしい自然美は

到底我が箱根の蘆の湖に及ばざるを思はずにはゐられませぬ。



瑞西の木彫り人形

木地をみせたまつた上仕上げの刀の美、淡く賦彩し透明な樹脂性塗料を以て、その美を飾り、牧歌的情緒をそよませる。

に觀られました。聞けば品川のその某寺の吊鐘が、失はれてから年久しくして、此のジュネーブのサン・ピエール寺

此の町の  
アリアナ  
Aryanaと  
いふ人の寄  
附になつた  
といふ美術  
館には、我  
が東京の品  
川の某寺か  
ら贈られた  
といふ石塔  
籠が、先づ  
私にはなつ  
かしいもの

院(?)に發見され、夫れを遙々日本に返送したお禮に贈られた塔籠だといふ由緒あるもの。日本の新聞にもあつたかと記憶をよび起したものです。

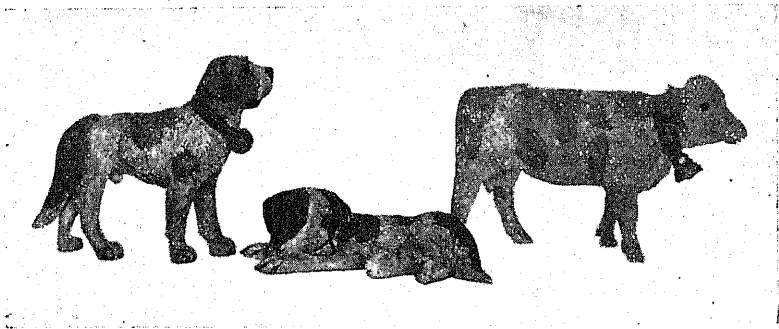
スキス寺やローンつゞきの露の森  
朝霧に尖塔かすむ湖畔かな

### ▽瑞西の木彫と時計△

ジュネーブの特産は先づ木彫人形や世界的に有名な時計であります。

アルプス登山者や、此の地方獨特な素樸な百姓姿の人物や動物などを題材とした刀のあとの麗しいもので、何れもお土産品として多く賣られてゐます。

瑞西の時計の街ベルンと云はれてゐるもの、その製造所は主としてこのゼネヴ湖畔にあります。明日はジュネーブをベルンに向つて發たうとするので、豫て時



### 瑞西の木彫動物

此の木彫を透明な顔料で淡く賦彩してしるは右の山の間は縁の芝地に。此の木彫を放牧せしめてるに首を鈴をたけつ、牛、左は二つとともバナーン、ドナーン、犬、何れも此の種の木彫の壽府の到る所に。すまんでん込をのうや玉京南に眼。すまんでつ賣しと土産土。

計を買はうと思つてゐたが一般に歐米の街は午後六時或は七時以後は店舗を締めるので、遂にその暇なく、よつてクツク社の好意により、一流の時計製造所主、Alfred Hof 氏の私邸を訪ねて御主人に面會。宏壯な邸宅の主人としてのホッフ氏は又實に立派な紳士である。こゝで同氏の趣味としての時計の聚集を見せてもらひました。その聚集された數は實に驚くばかり、日本の古代の製作に係るゼンマイ仕掛、齒車全部を手製にした木箱型の時計を見せながら、主人は莞爾として

「お國でも昔からやつてゐますよ」といふ。買はうと思ふ時計は何れも最低百圓以上のもので、懷中時計中最も高級に屬するといふ。

### ▽首都ベルン△

ジュネーブから、ベルンに到る間も、また忘れがたい車窓の美しい眺めであります。午前七時、ジュネーブを發つた汽車は、ローザンヌを経て、左にジュラ山脈を、右にアルプスの秀峯を指呼しつゝ盆地を北に走つてゐます。

模糊としてゼネヴ湖畔の朝さむし

ロザンヌやアルプスの山巍嶷として

朝さむみふるさと偲ぶモンブラン

といふうちに汽車は遠慮なく走つて、二時間半にして、瑞西の中央にして首都のベルン著。

アルプス河の上流、ハール河によつて構成された砂洲上アルルの流れが可なりの急角度を以てカーブする所に建てられた町で、南の方にアルプス山脈の有名な諸峯が竝んで美しい。フィンスター・アルホルン、ユングフラウ、シュ

レツクホルン、メンシエ、アイガー、ヴェツターホルス等の群峯が聳立して雲を呼んでゐます。

私たちは國會議事堂や、時計の塔等を見物して、瞻て矢田大使のお招きにあづかつた。お献立は牛肉のすき焼！そゞろ日本に歸つた心地がして、そのうまさ！

こゝから、私たちは伊太利のミラノへ抜けて遍路をつゞける。これは所謂、アルプスの横斷鐵道によらねばならぬ。ベルンからカandel谷を溯つて、あの有名なシンプロン隧道の西に、マギヨール Maggior 湖に沿ふて、電氣機關車に索引されて走る。島あり、美しい素樸な住宅がありその眺めも誠に捨て難いものであります。

x

x

x

x